

景況動向指数(Diffusion Index)

(2021年7月～9月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

* 調査期間 2021年7月～9月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2021年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

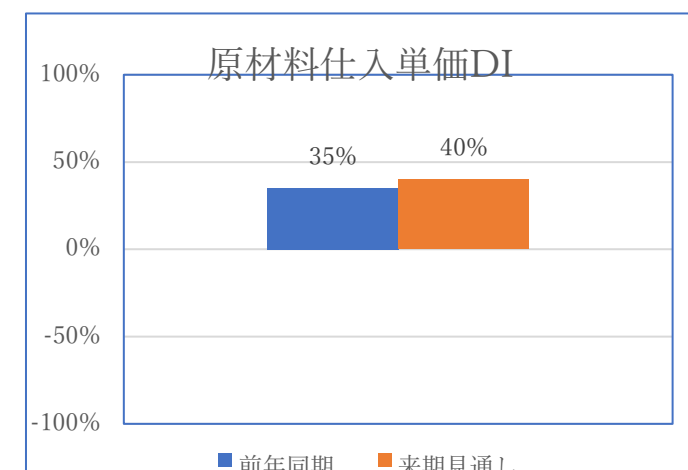
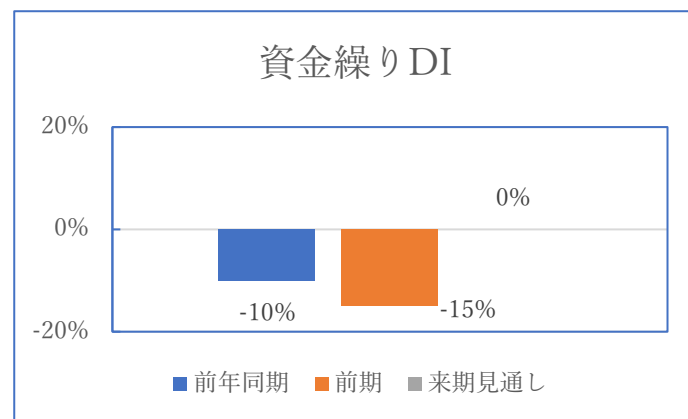
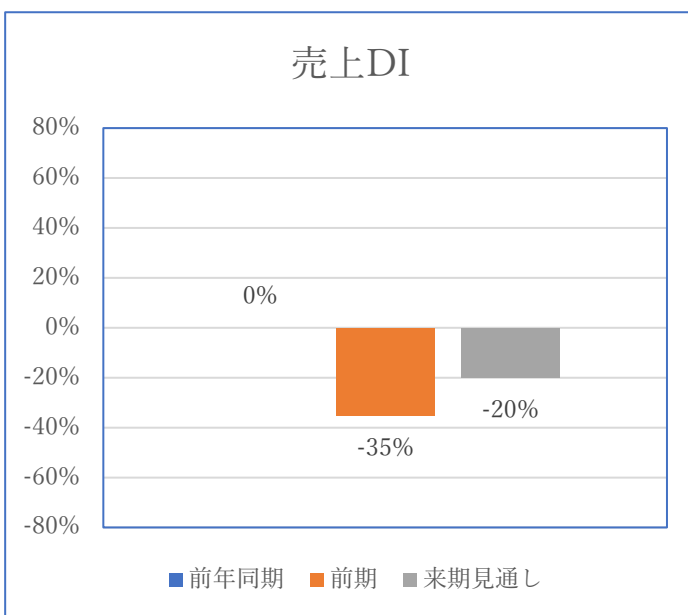
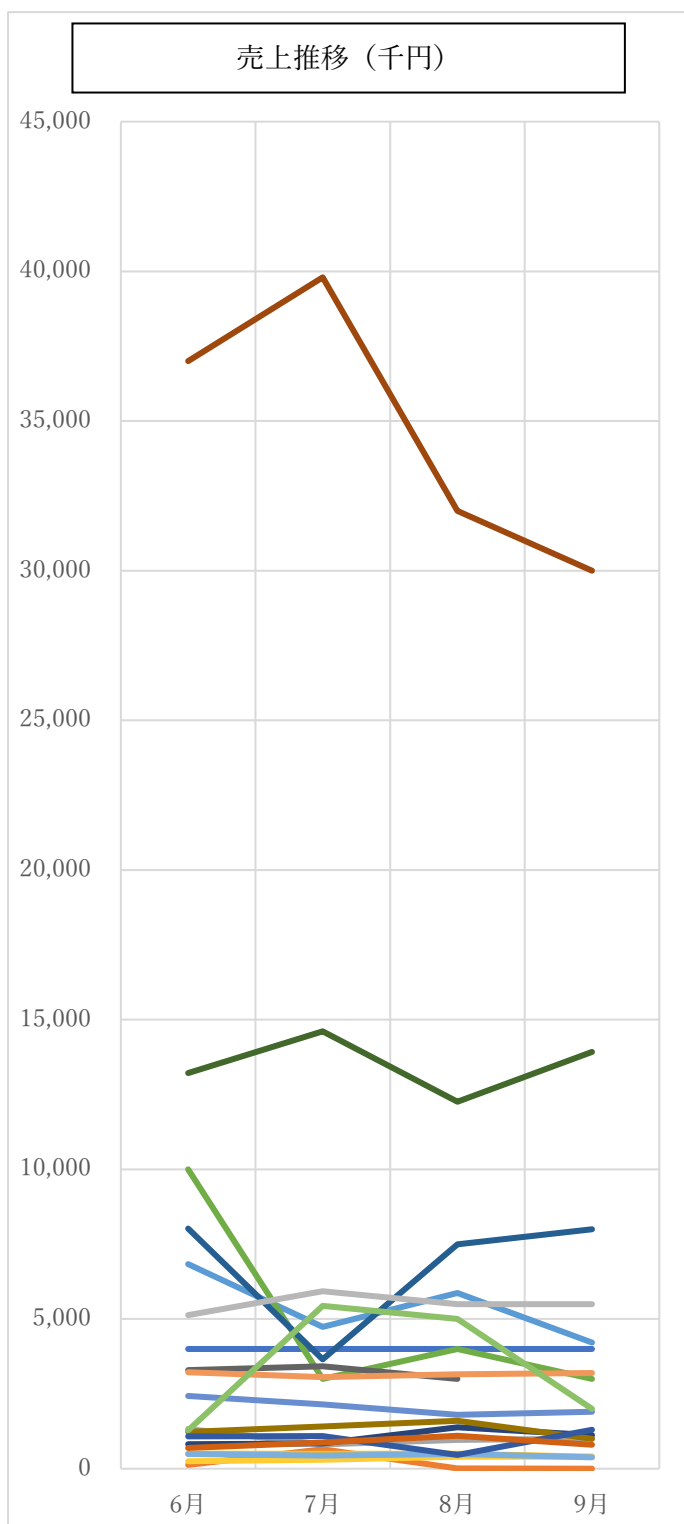
製造業の業績判断にかかるDIは、コロナの影響に加えて仕入原価の上昇の影響による収益低下の影響が先行きの不安が続いている状況である。

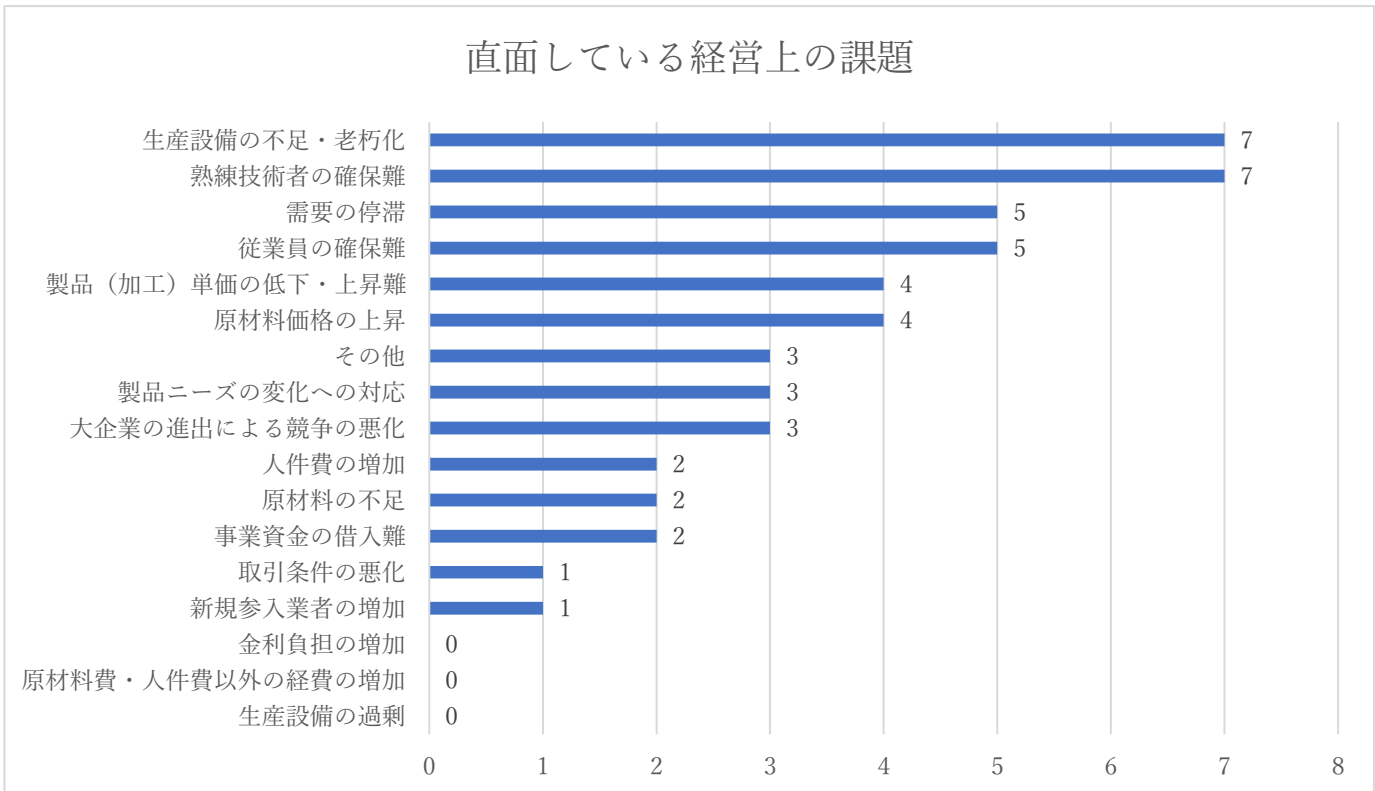
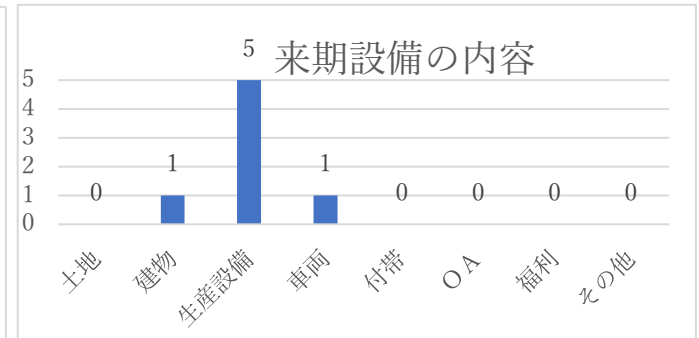
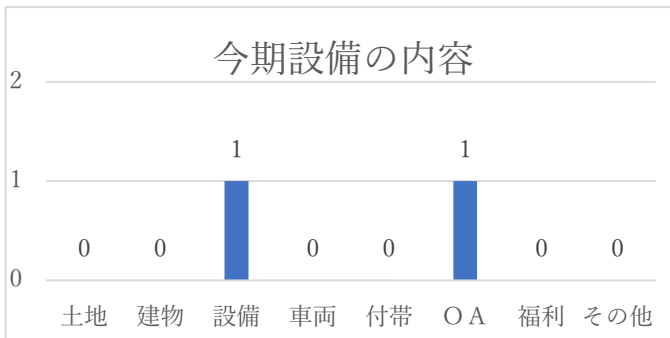
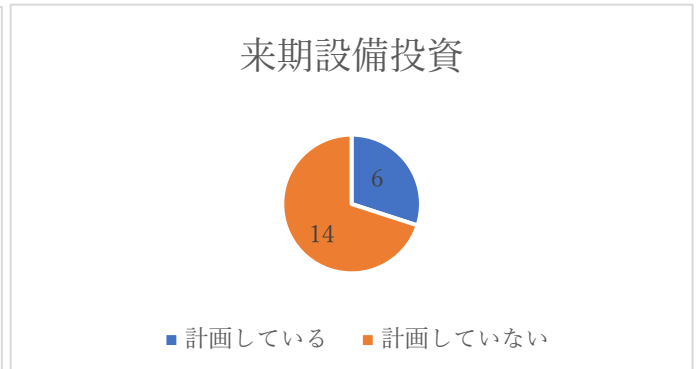
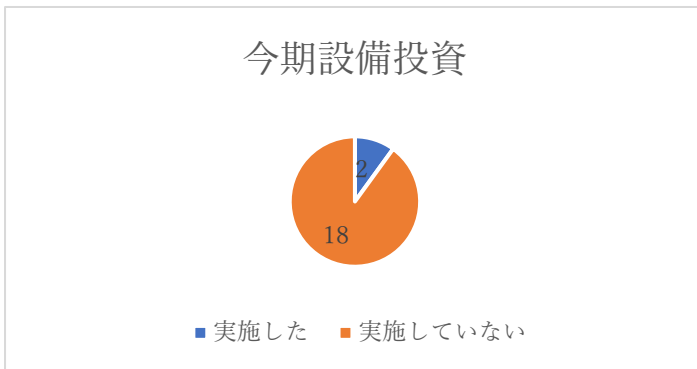
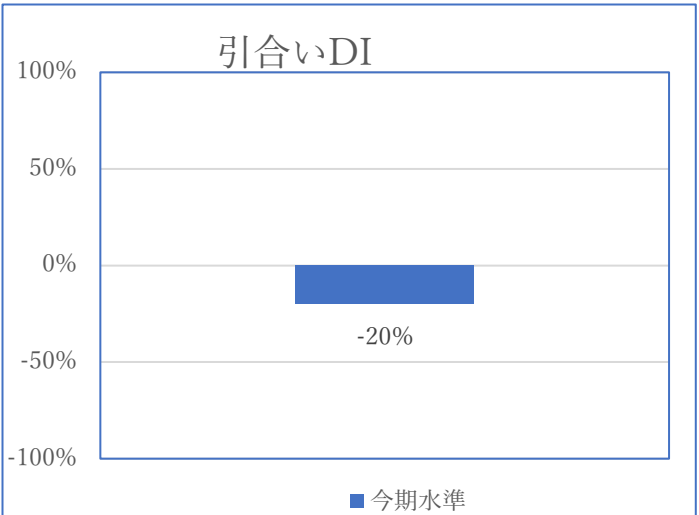
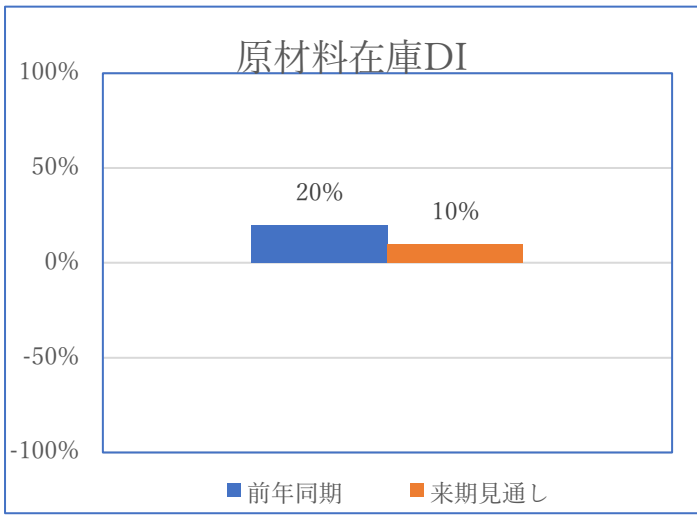
売上DIは前年同期比±0、前期比▲35と足元で失速しており、来期見通しについても▲20と低調な見通しである。

資金繰りDIについては前年同期比▲10、前期比は▲15と足元の厳しい状況がうかがえ。来期の見通しが±0で拮抗している。原材料仕入単価DIの上昇傾向が続き、前年同期+35、来期見通し+40と原価上昇を上げる企業が多い。引合いDIについても、今期水準▲20と弱含みである。

設備投資について、来期に生産設備に関する投資を行う企業があり。他業種より設備投資の回復が見受けられる。

個別の声としてはコロナの影響が多数みられる。ショッピングセンターが時短になったことによる受注低迷、工場の稼働が停止して受注がストップしているなど感染症拡大の悪影響の声がある。一方巣ごもり需要でスーパー向けの総菜の需要が増加しているとの声もあった。



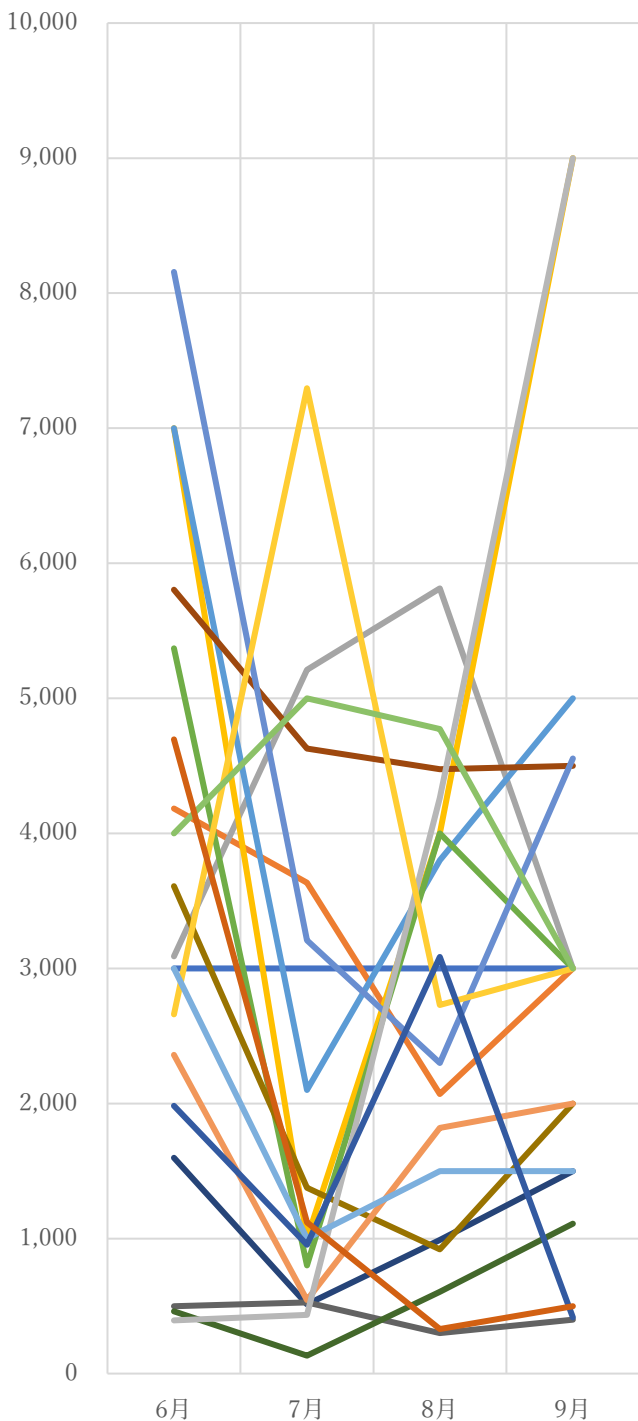


建設業（2021年7月～9月）DI 値抜粋

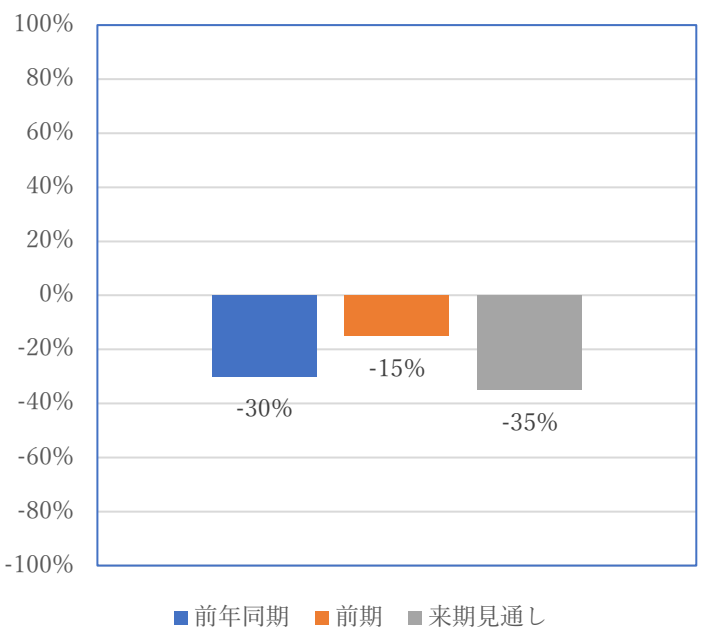
コメント

建設業の業況はコロナの影響に加えてウッドショックによる原材料価格の高騰による採算悪化、着工減少により、7～9月の業況は厳しい状況となっている。
 完成工事高DIは前年同期▲30、前期▲15と足元の厳しい状況に加え、今後の見通しは▲35と先行きも苦しい状況が見受けられる。
 材料仕入れ単価DIが極めて厳しく、値上がり+95前年同期ではほぼすべての企業が材料の値上げの影響があると回答している、来期見通しとも+55と木材仕入価格の値段上昇を上げている。個別企業のからは、ウッドショックにより見積が出来ないため契約に結びつけるのが難しいとの声がある。
 資金繰りDIも改善傾向はなく低調であり足元今後の見通しともマイナスの推移である。コロナ融資の元金返済開始が迫っており改善が必要との声がある。
 設備投資は業況や受注状況を反映して極めて低調である。経営課題としては、材料価格上昇を上げる企業が前回調査の11社から15社に増加している。特徴的な声では、施主がコロナの影響で残業が減って厳しいため見積価格の圧縮を求められ、受注額が下がるとの声があり、コロナの影響が色濃い。

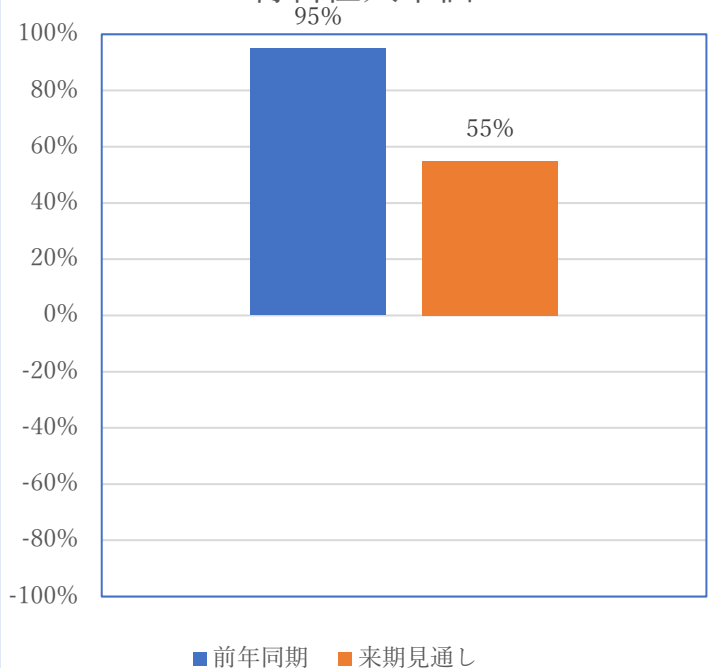
売上推移（千円）



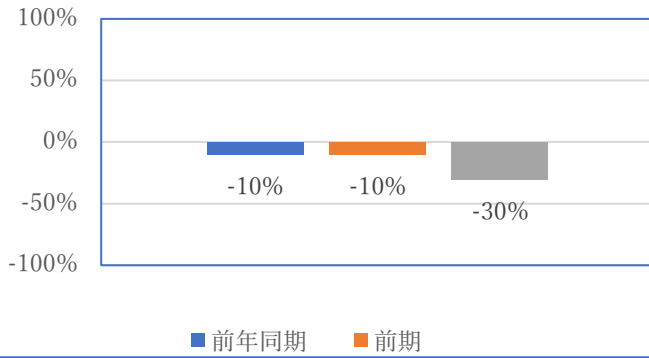
完成工事DI



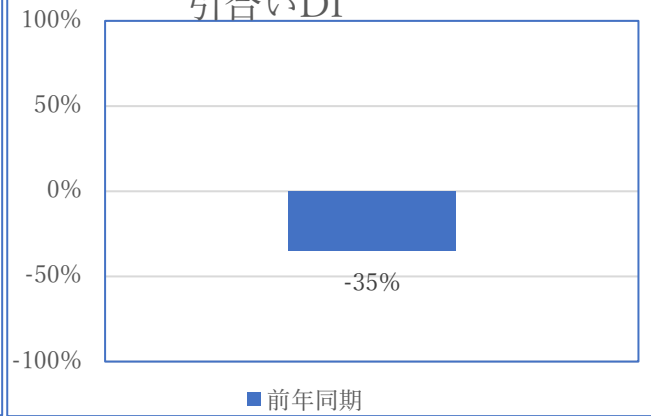
材料仕入れ単価DI



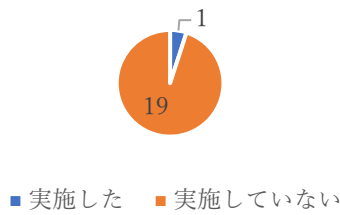
資金繰りDI



引合いDI



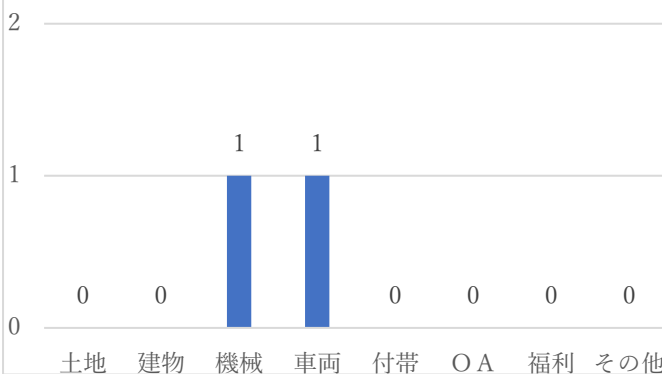
今期設備投資



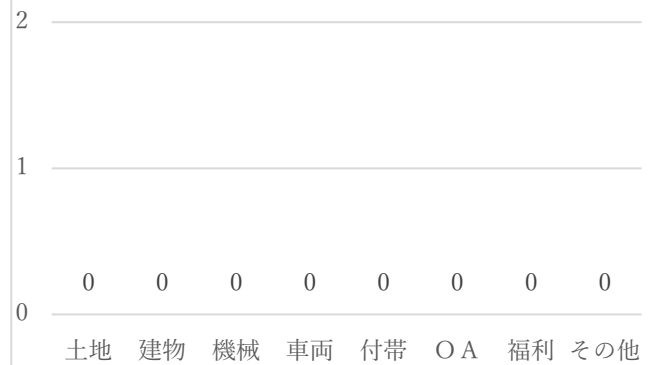
来期設備投資



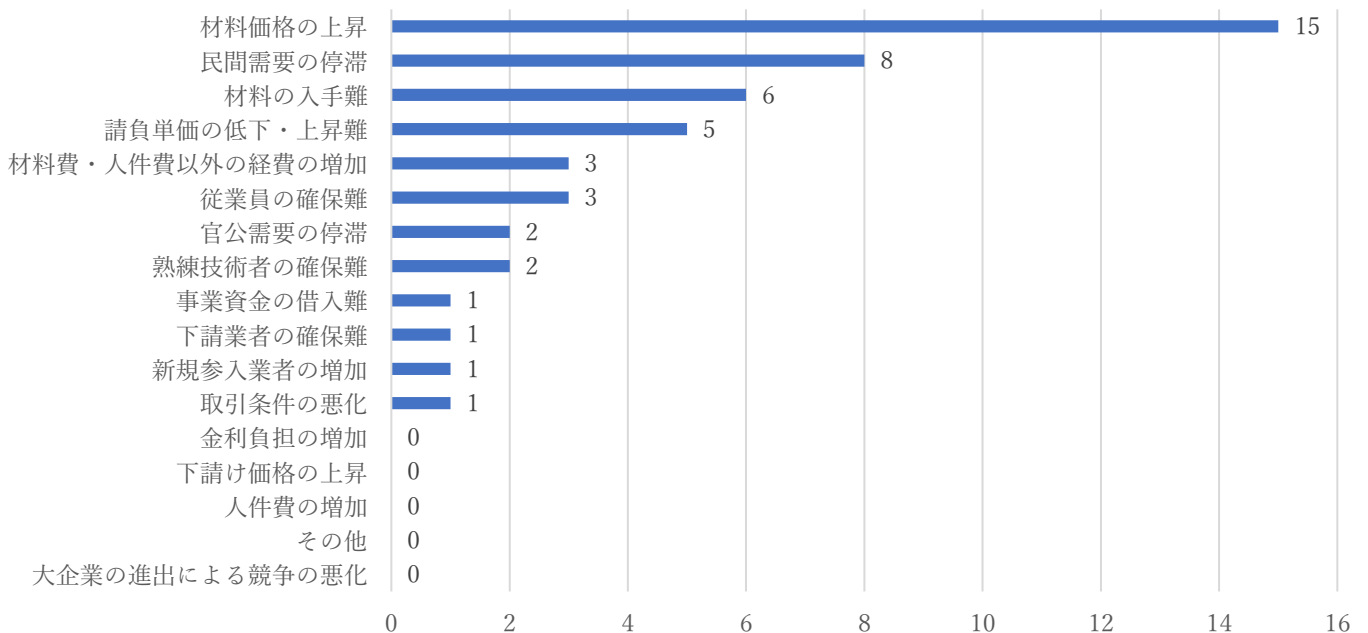
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



卸小売業（2021年7月～9月）DI値抜粋

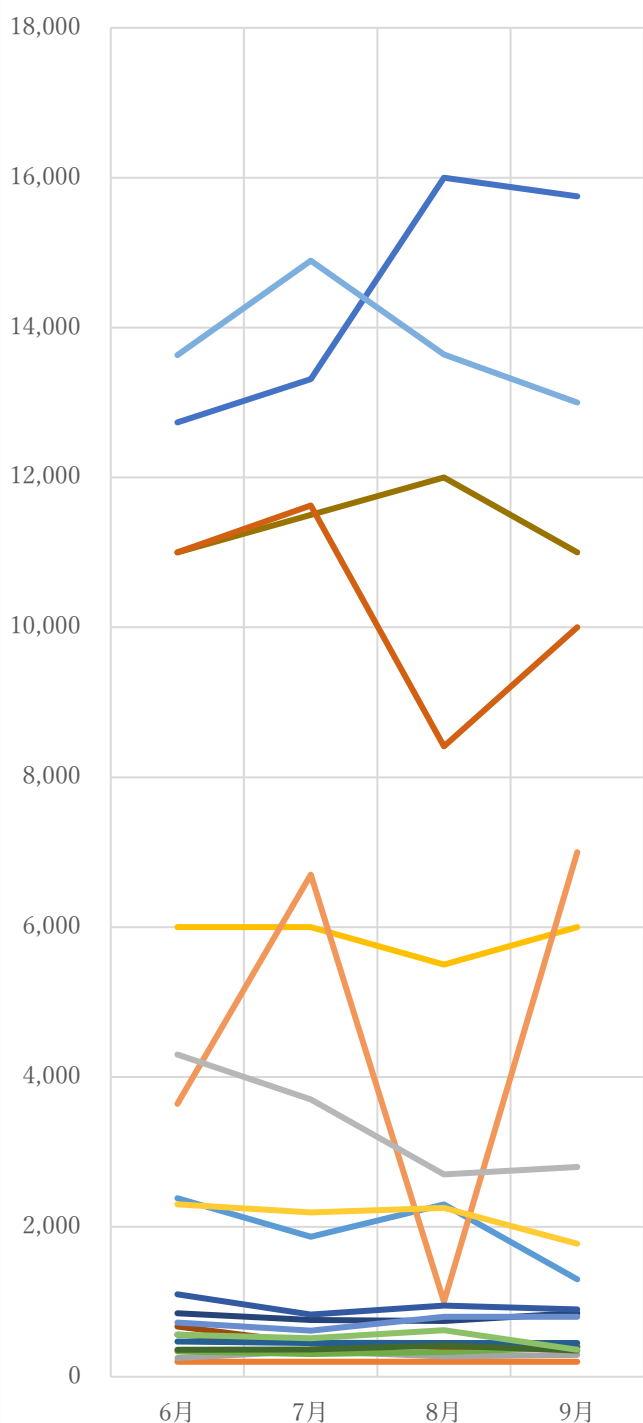
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、足元のコロナ第5波の影響もあり厳しい状況であり、回復を見込みづらい見通しである。

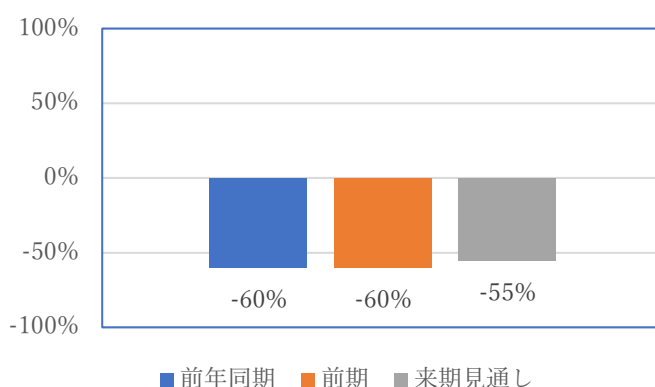
売上DIは前年同期▲60と第1波、第2波の時期よりも減少している声が多く事態は深刻である。前期からも▲60と年明けからの低迷から回復していない声が多く。今後の見通しも▲55とさらに厳しい見通しとなっている。

資金繰りDIについても前年同期比▲30、前期▲30と現況についての厳しい状況が続き、来期も▲35と前期調査時よりさらに悪化している。店頭客の減少が顕著であり客数DIも前年同期比▲55、前期比▲40 来期見通しも▲50と過半数を超える企業が来客の減少を訴えている。採算を悪化させる要因としては商品仕入単価DIが上昇している声の特徴的である、前年同期+25、来期+20と原価の上昇により収益が圧迫されている。借入金について、長短期とも難易度上昇の声があり、▲20と来期見通しで追加借入への懸念がみられる。個別の声として、コロナに加え天候不良で先の見えない閉塞感がある、前年はGoToキャンペーンで回復があったが今年は第5波の影響で人の動きが伸びることが感じられないと、現状の厳しい状況を表す声が大きい。お盆の手土産購入による売上が減っているとの声があった。

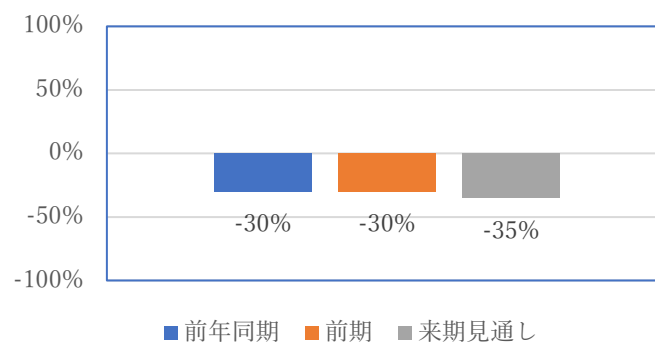
売上推移（千円）



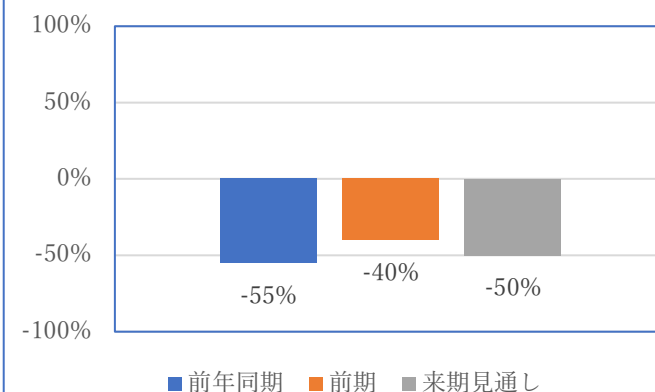
売上DI

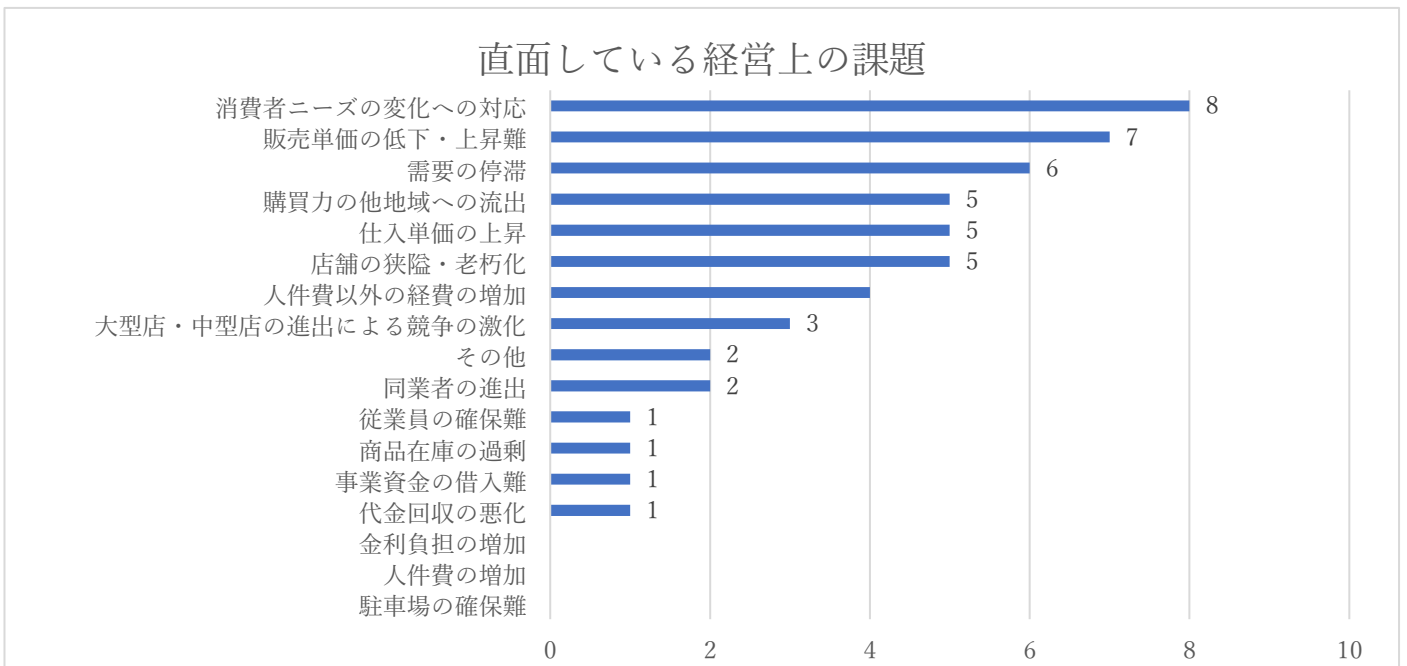
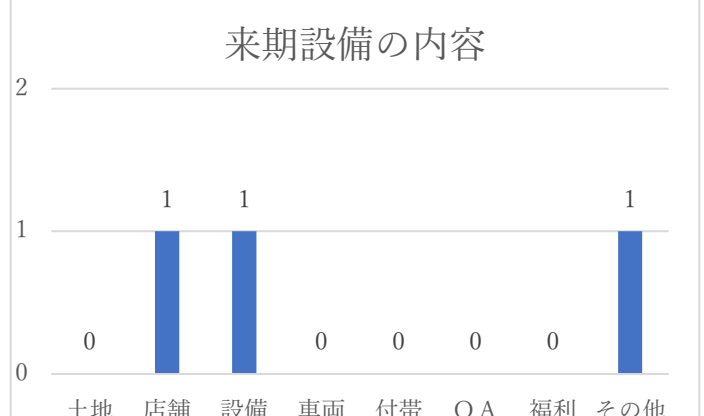
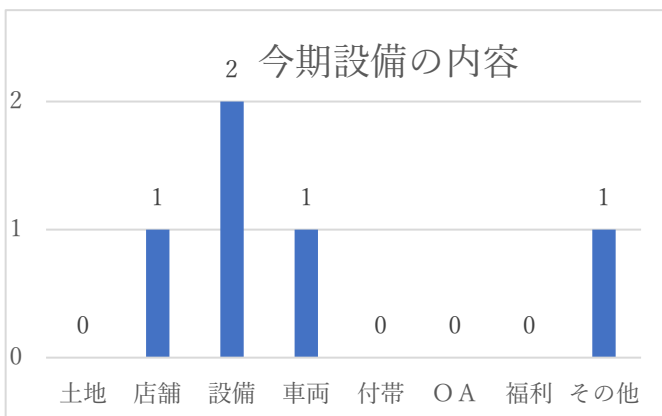
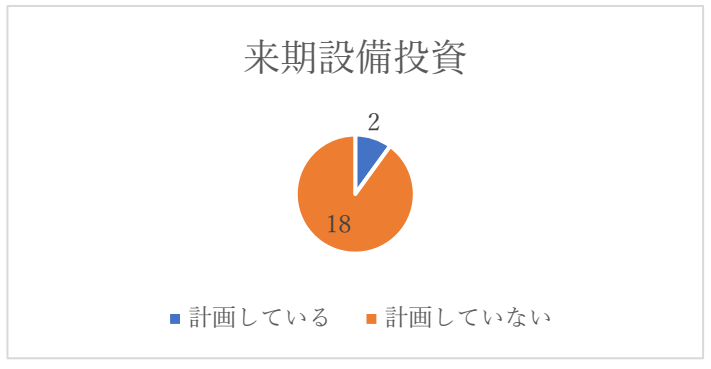
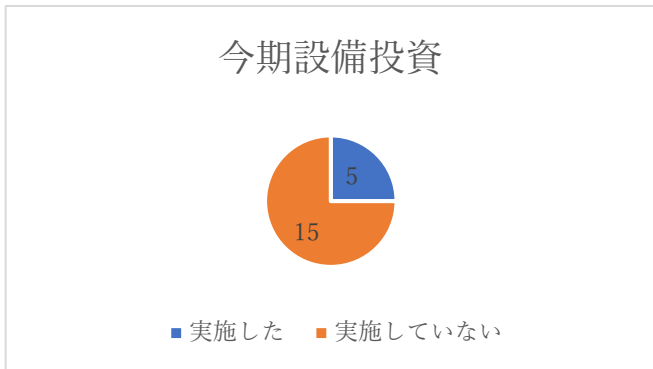
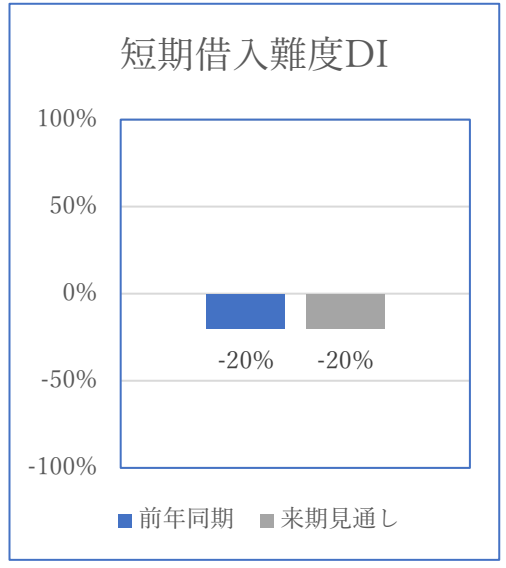
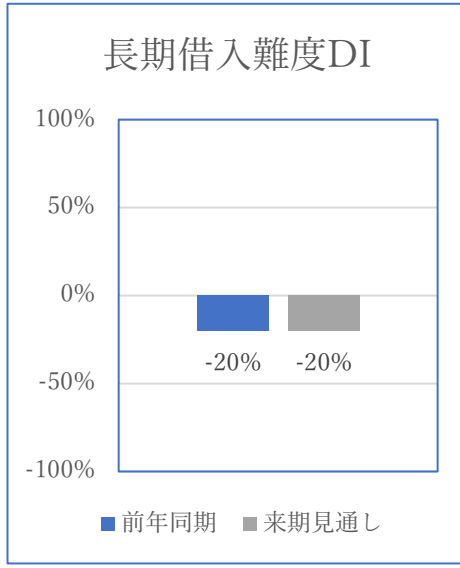
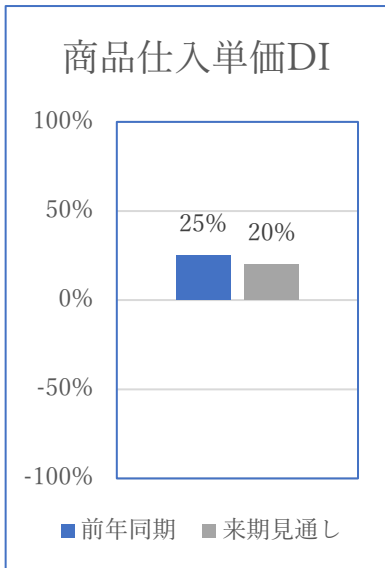


資金繰りDI



客数DI





飲食宿泊業（2021年7月～9月）DI値抜粋

コメント

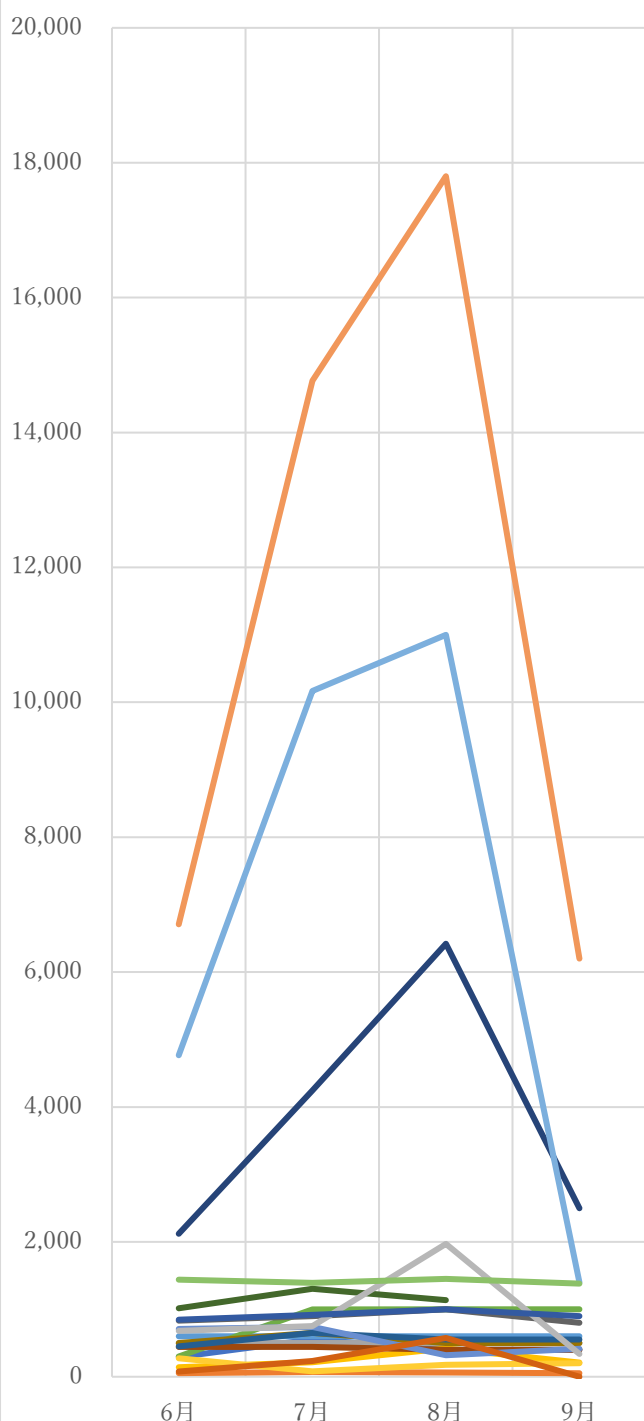
飲食宿泊業の業況に関するDIは、極めて厳しい状況が続いており、県内に緊急事態宣言が発出された状況で、回復の糸口が見えず先行きを懸念する声が多い。

売上DIは前年同期▲60と前年のGoToキャンペーンからの低下の声が大きく、前期比も▲20と落ち込んでいる。来期は▲75と観光シーズンに向けて厳しい見通しを上げる声が大半である。客単価DIも低調で、前年同期▲40から前期▲25と低調であり、来期も▲40と厳しい見通し。客数DI前年同期▲65、前期▲30、今後の見通しも▲75とコロナの影響により集客に改善が見受けられない状況が続いている。

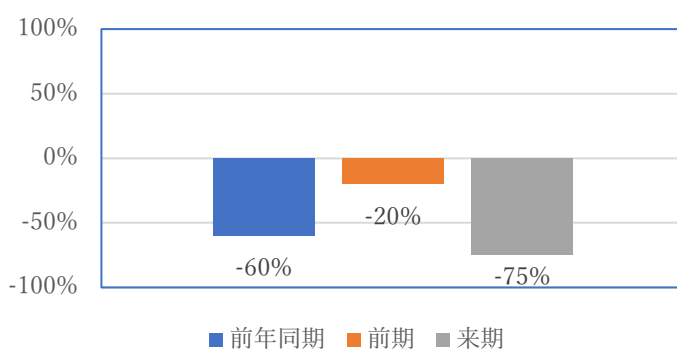
資金繰りDIは前年同期▲55前期比較▲35来期▲70と飲食宿泊業の資金繰りは現状も見通しも極めて厳しい。従業員DIは来期見通し▲20となっており業況低迷が雇用にも影響を与えている。設備投資も低調である。

個別の声としても緊急事態宣言による悪影響を上げる声が多い。宿泊やアウトドアの業種で人の流れが遠のくので業績への影響が大きいという声がある。一方、持ち帰りの売上はさほど減少していないという声も聞かれ、テイクアウトへの対応など経営の工夫をすることの重要性も伺える声があった。

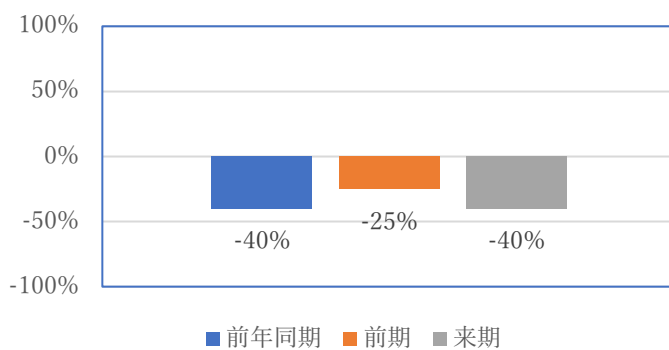
売上推移（千円）



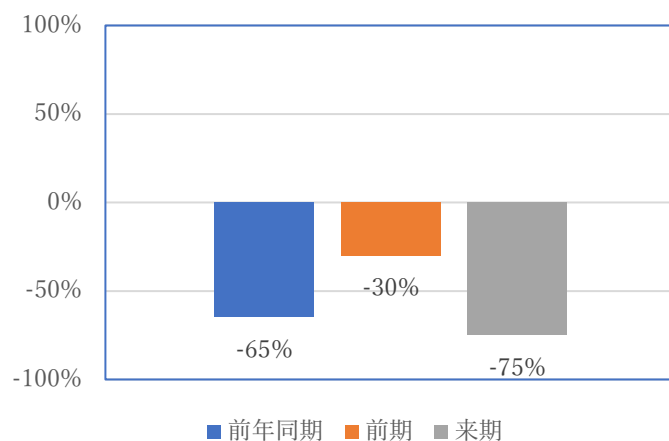
売上DI

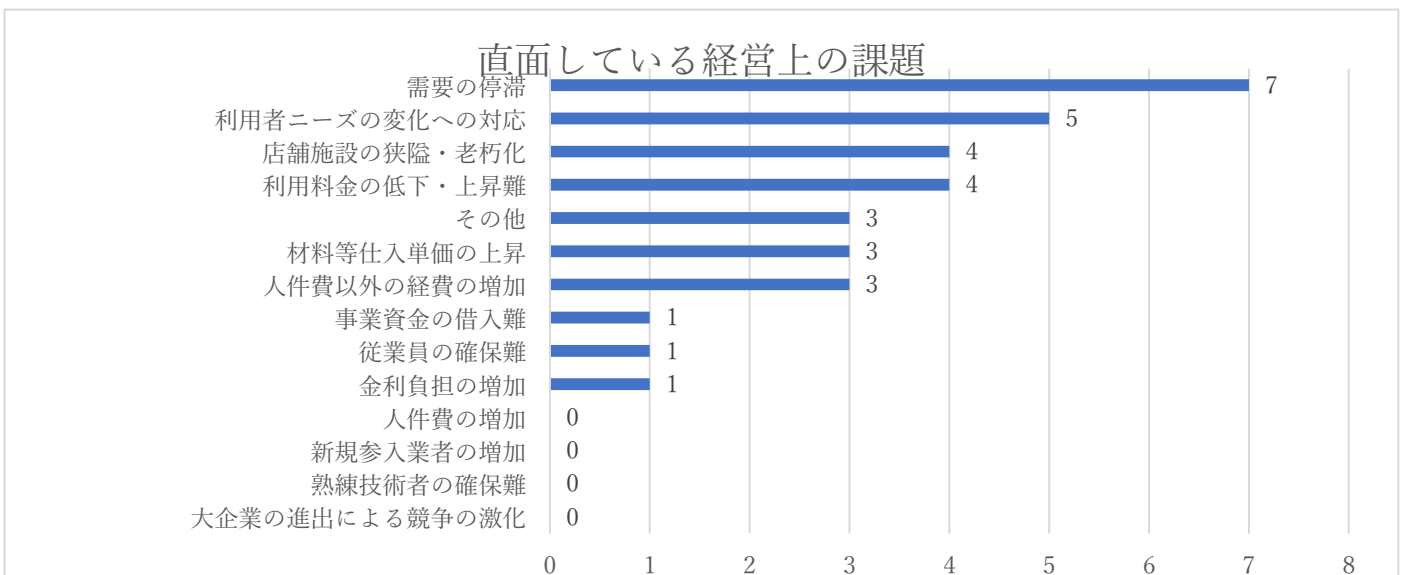
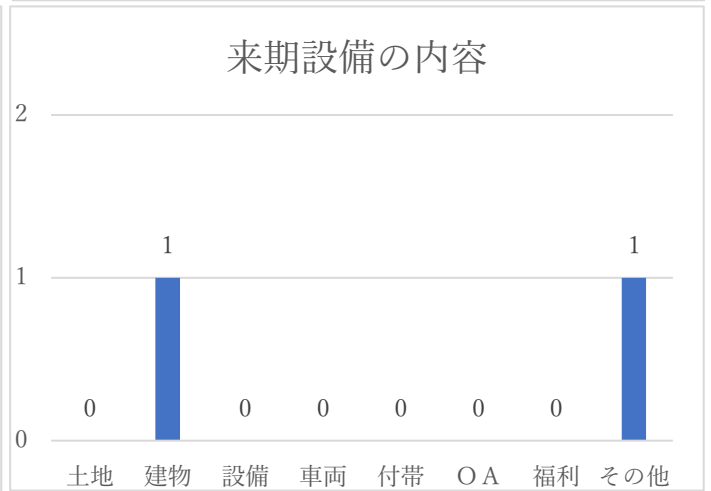
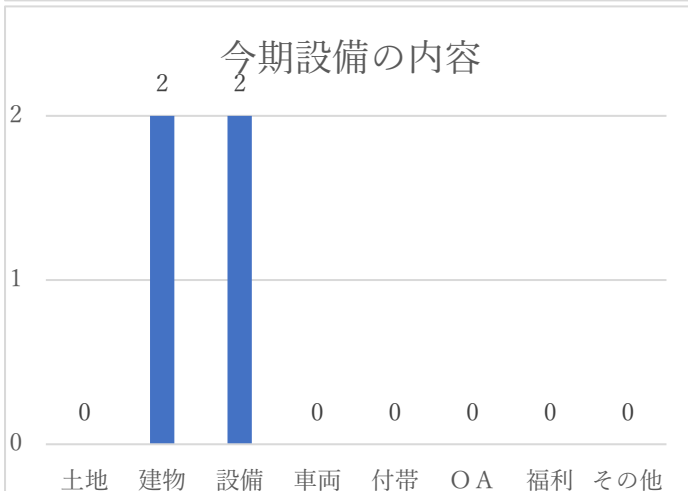
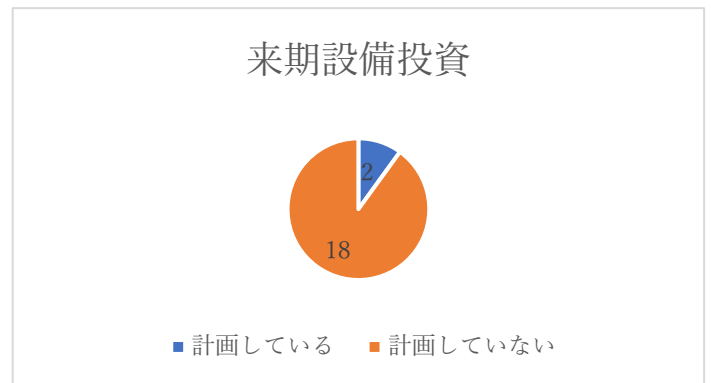
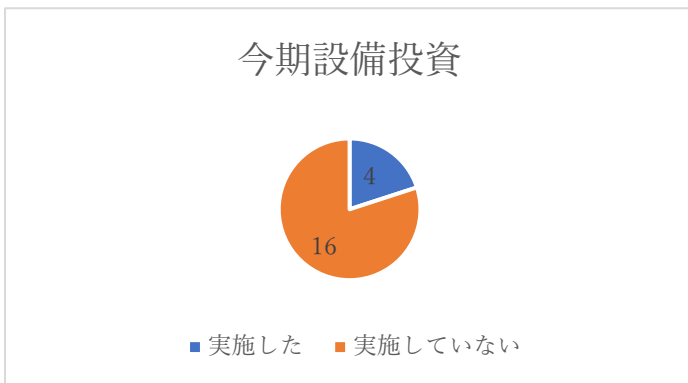
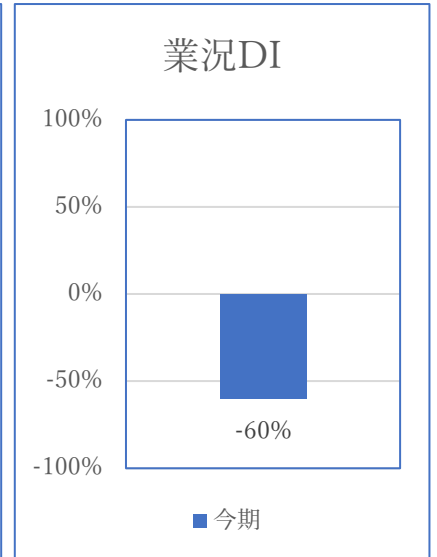
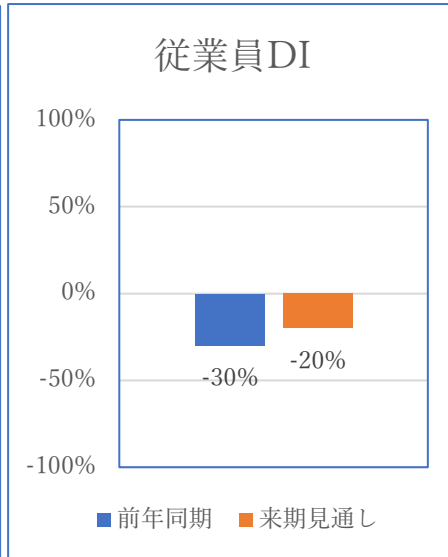
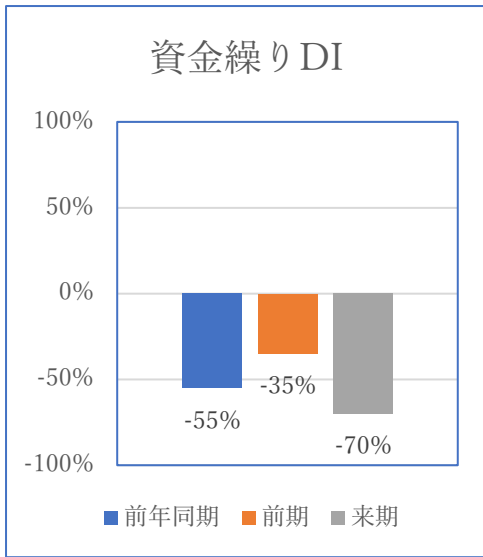


客単価DI



利用客数DI

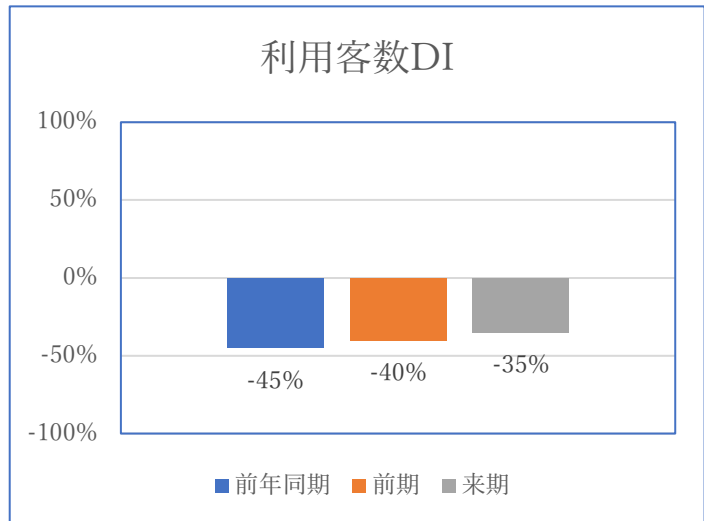
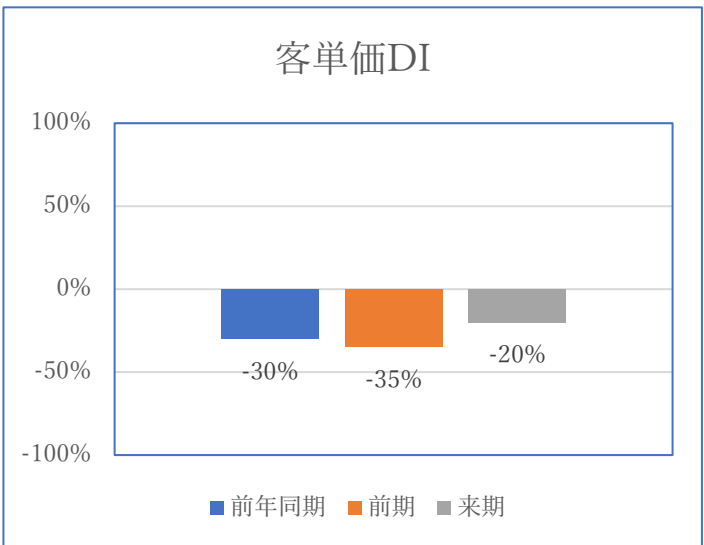
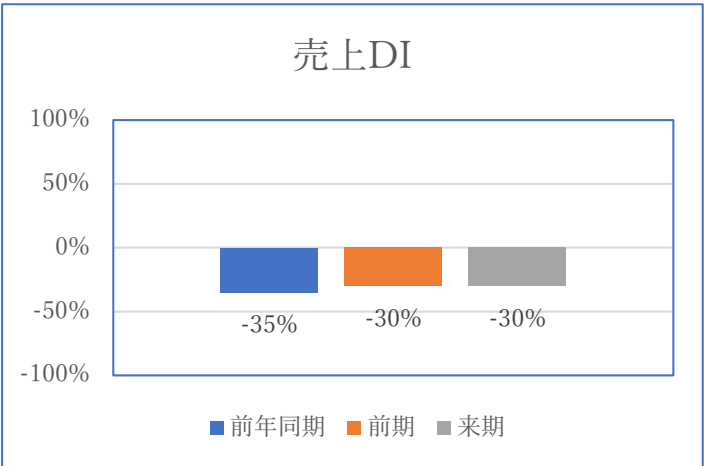
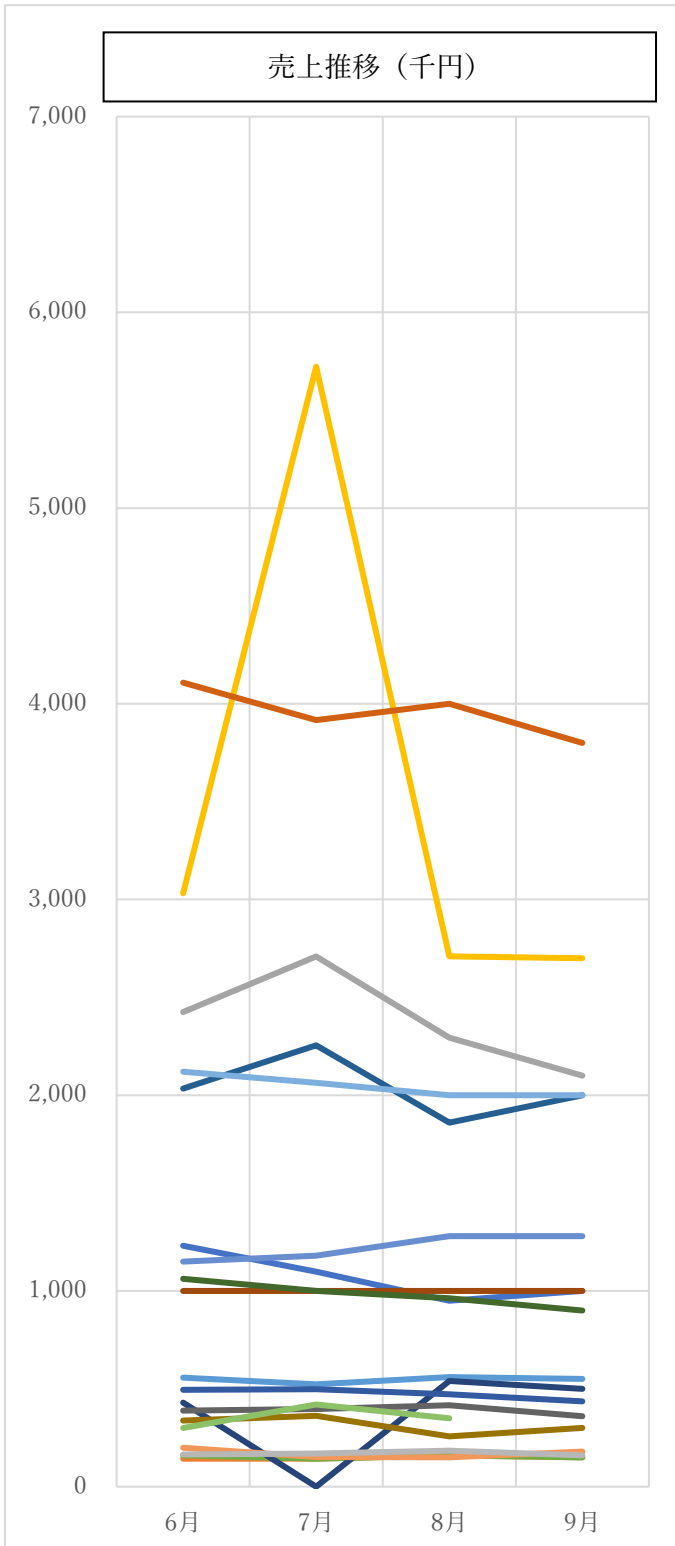




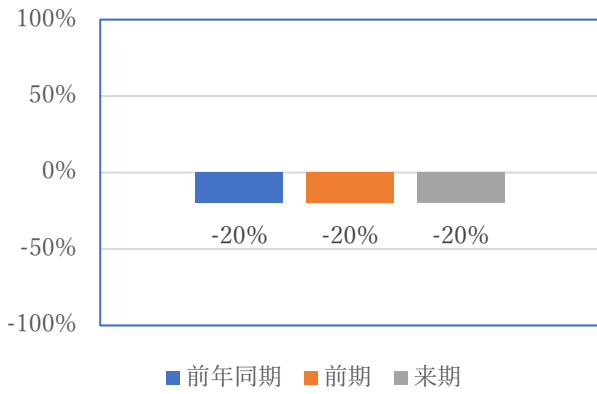
サービス業（2021年7月～9月）DI値抜粋

コメント

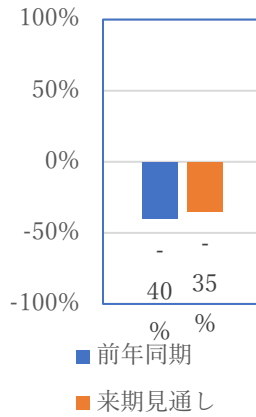
サービス業の業況は前回調査で若干の下げ止まりがみられたがコロナの影響により再び低迷している。売上DIは前年同期▲35、前期▲30と足元で低下傾向であり、来期見込みも▲30と第5波により低迷が続く見込みである。
 客単価DIは、前年同期▲30、前期▲35、今後の見通しも▲20と回復が見込めず低調、客数DI前年同期▲45、前期▲40、今後の見通しも▲35と低下傾向に歯止めがかからない。
 資金繰りについて各期比較と見込みも▲20で資金繰り悪化を上げる企業が過半である。
 採算DIは前年同期▲40、来期見通し▲35と収益の悪化の声が大半である。借入については一巡しており調達難の難易度は小康状態である。設備投資については今期の実施も少なく来期の計画も低迷している。
 個別の声としては、美容業において、イベントが少なくなると客足が遠のくというコロナの影響、整骨院では、老人の人流が控えられ、接触が多い仕事での苦勞が聞かれる。外出が控えられることで車両の事故が少なくなるため自動車板金の修理も減少するという声もあった。



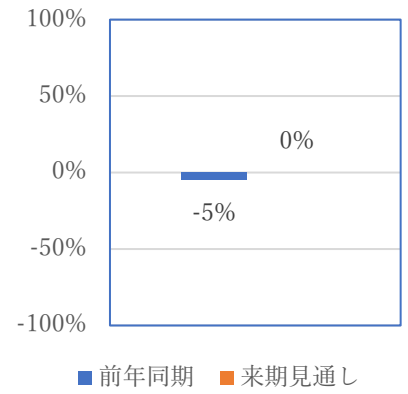
資金繰りDI



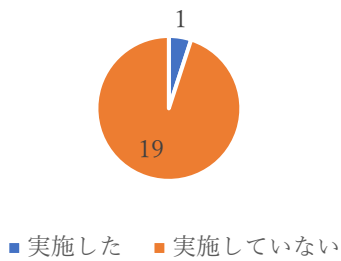
採算（経常利益）DI



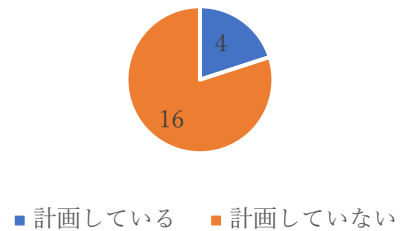
長期借入難度DI



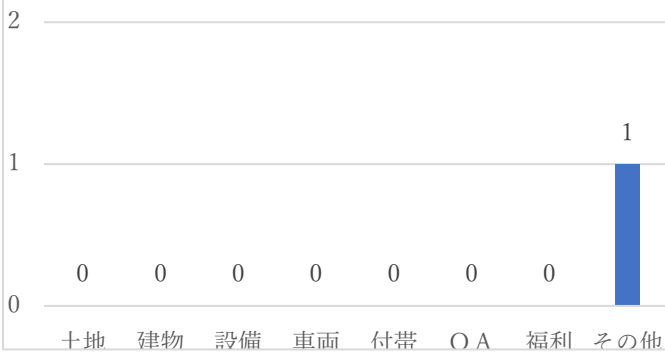
今期設備投資



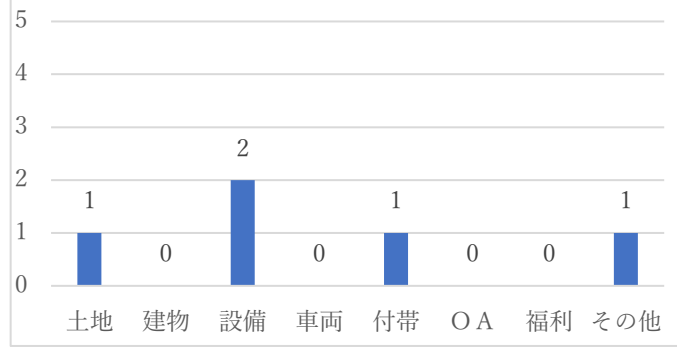
来期設備投資



今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

